

もみじ



県立広島病院 〒734-8530 広島市南区宇品神田1丁目5番54号

※県立広島病院の様々な情報をホームページへ掲載しています。
県立広島病院で検索 (URL: <http://www.hph.pref.hiroshima.jp/>)



理念：県民の皆様に愛され信頼される病院をめざします

連携医院のご紹介

今回は「地域のかかりつけ医」を目指している南区の『森泌尿器科皮フ科クリニック』の井上洋二院長にお話を伺いました。



森泌尿器科皮フ科クリニックのスタッフ

森泌尿器科皮フ科クリニック

〒734-0004
広島市南区宇品神田 1-2-16-2F
(ベガサスメディカル宇品)
電話 / 082-254-2120
院長 / 井上 洋二
診療科目 / 泌尿器科、皮膚科



ベガサスメディカル宇品の2階にあります

○いつ開業されましたか。

森浩一院長が、昭和 53 年 10 月に開業しました。平成 30 年に「森皮膚泌尿器科医院」から「森泌尿器科皮フ科クリニック」へと名称変更し現地に移転しました。私は数年前より診療に加わり平成 31 年 4 月よりこちらで毎日診察をしています。

○開業されてから今までのことを教えてください。

森先生とは県立広島病院で研修医の時からお世話になっており、それから公私含めてずっとお付き合いがありました。森先生は、開業してからずっとこの場所で地域医療を続けていきたいという想いがあり、それに感銘を受け今回一緒に開業することになりました。

○力を入れている事は何ですか？

通院されている泌尿器科の患者様は 70 ~ 80 代の方が多く、プライマリ・ケアの医師として、まず正確な診断を行ない道筋を立ててあげることが、大切だと思っています。入院や特別な手術が必要になった場合は、対応できる病院に適切に紹介します。また退院後に経過観察が必要となった患者様には当院で十分にフォローができるように、膀胱鏡やエコー・レントゲンなど設備も整えています。また今後は往診や在宅診療にも力を入れていきたいです。

○毎日の診察で大切にしている事は何ですか？

患者様に分かりやすく誠意を

もって対応することが大切だと思っています。患者様に何か困ったことがあれば何でも相談に来てもらえるかかりつけの医師を目指しています。

○県病院はどんなところでですか。

知っている医師も多く、急患の相談や受け入れをしっかりともらっています。これからも今の関係を保ち、引き続き連携していきたいです。



X線内視鏡室



各部屋ごと仕切られています

【取材後記】

クリニックの内装がとてもオシャレで落ち着いた雰囲気であり、リラックスできる空間でした。先生をはじめスタッフの方も笑顔が素敵でアットホームな印象を受け、普段の患者様との素敵なやりとりが目に浮かびました。

教えて

Dr. 38

専門診療医による得意治療を紹介いたします。

疑われないと診断されにくい

リンチ症候群

消化器外科



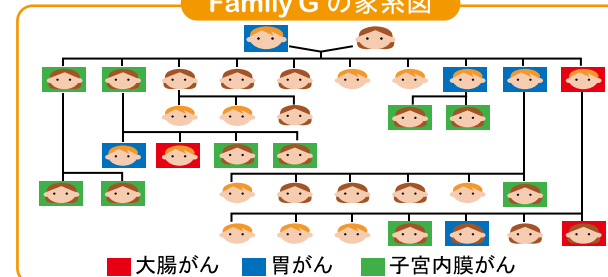
消化器外科 部長
三口 真司

◆リンチ症候群とは

大腸、子宮、胃、卵巣、膵臓、腎盂・尿管、胆管、小腸、脳などの多臓器にがんを発症するリスクが高い遺伝性疾患です。常染色体優性遺伝形式の疾患で、リンチ症候群の原因遺伝子に病的変異が認められた場合、その子供には 1/2 (50%) の確率で同じ病的変異が遺伝します。【図1】は 19 世紀初頭に報告された Family G というがん家系でリンチ症候群という疾患概念が確立される契機になった家系図の一つですが、一見するだけで3つのがんが家系内に多発していることが分かります。

Family G の家系図

【図1】



リンチ症候群の方が生涯で発症するがんの可能性を【図2】に示していますが、一般集団(リンチ症候群ではない人達)に比較してそれぞれ 10 倍以上とがん発症のリスクが非常に高いことが分かります。

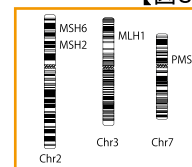
【図2】

	リンチ症候群	一般集団
大腸がん	52 ~ 82%	5.5%
子宮内膜がん	25 ~ 60%	2.7%
胃がん	6 ~ 13%	<1%
卵巣がん	4 ~ 12%	1.6%

◆何が原因？診断された場合は？

リンチ症候群の原因としては、【図3】のように遺伝情報を含む染色体の中にある MLH1、MSH2、MSH6、PMS2 といったミスマッチ修復遺伝子の病的変異

【図3】



です。これらの病的変異を治す治療は今現在ありません。しかしながら、リンチ症候群と診断された家系の方々にリンチ症候群に発症する関連がんの検診(推奨方法は次頁の【図6】)を行うことで早期のがん発見・低侵襲でがんを治す治療の提供が可能となります。通常のがん発症好発年齢に比較して、リンチ症候群の方はがん発症年齢が若く、またがんのできるまでの期間も早いため、通常の一般健診では早期発見できず、診断されたときにはがんを治す治療が提供できないほど進行しているというケースを経験することがあります。よって、リンチ症候群と診断を受けた方の家系内で遺伝している可能性がある方を対象として、血縁者診断を進めていきます。そして、確定診断が付いた方は上記の検診を受けることが推奨されますし、診断されなかった方はがん発症のリスクは高くなく安心して頂けます。

◆どのような方が疑われる？

本邦では大腸がん発症者からリンチ症候群を拾い上げていく手順を示した遺伝性大腸癌診療ガイドラインがあり、【図4】に示した基準の一つでも満たす場合は追加の臨床検査に進んでいくことになります。簡潔にまとめますと、大腸がん非常に若くして罹患した、大腸がん以外に複数臓器のがん発症の病歴を持っている、また家系内のがんの発症が多発しているという患者が疑われるということになります。

リンチ症候群が疑われる項目【図4】

- 50歳未満で診断された大腸がん
- 年齢に関わりなく、同時性あるいは異時性大腸がんあるいはその他のリンチ症候群関連腫瘍がある
- 60歳未満で診断された MSI-H の組織学的所見を有する大腸がん
- 第1度近親者が1人以上リンチ症候群関連腫瘍に罹患しており、そのうち一つは 50歳未満で診断された大腸がん
- 年齢に関わりなく、第1度あるいは第2度近親者の2人以上がリンチ症候群関連腫瘍と診断されている患者の大腸がん

当ではまる項目があればかかりつけ医に相談の上、当院へ紹介してもらってください

新型コロナウイルスに関するお知らせ

日頃より新型コロナウイルス感染症の拡大防止の為、皆様にはご理解・ご協力をいただき誠にありがとうございます。

5月25日緊急事態宣言の解除に伴い、外来診療や入院患者さんへの面会の制限を徐々に緩和しております。

尚、今後も感染の拡大状況により変更が生じる可能性がありますので、ご了承ください。

随時お知らせを更新していますので、詳細は当院ホームページ等でご確認ください。

皆様にはご心配とご不便をおかけしますが、よろしくお願いいたします。

